

一般研究発表 (A) 一覧

A-1) 男女ランナーの運動強度と最大脂肪酸化量の関係

中嶋 南紀(大阪体育大学)

A-2) 4時間のLSDにおける脂肪酸化量の変化

須佐 大(大阪体育大学)

A-3) 難消化性デキストリン摂取が軽運動時における糖・脂質代謝に及ぼす影響

高橋 将記(徳島大学大学院人間・自然環境研究科)

A-4) 夏場のウルトラマラソンでの給水がレースペース及び耳内温に与える影響

仙石 泰雄(平成国際大学)

A-5) 走速度と心拍数を用いたランニング中の心拍数のドリフト評価の妥当性

中村 和照(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

A-6) 自転車運動および走運動における最大酸素借の比較

吉岡 利貢(筑波大学体育センター)

A-7) 換気制限が短時間高強度運動に及ぼす影響

石井 達史(東京工芸大学)

A-8) 大学陸上競技選手の身体組成の評価のためのソマトタイプの有用性

得居 雅人(九州共立大学スポーツ学部)

A-9) 身体部分慣性特性が走動作に及ぼす影響-日本人およびケニア人一流長距離ランナーの比較-

岡田 英孝(電気通信大学)

A-10) 接地中の膝・足関節動作がパフォーマンス、重心上下動、下肢筋厚と関連する

岡本 英也(京都大学大学院)

A-11) エネルギー代謝モデルを用いた5000m走の記録に及ぼすペース配分の影響

犬塚 勝美(豊田工業高等専門学校 電気・電子システム工学科)

A-12) 世界一流男子800m走者のラストスパート動作

門野 洋介(筑波大学大学院)

A-13) 動作解析におけるフィードバック法の検討

遠藤 久慶(成蹊大学大学院工学研究科)

A-14) 長距離ランナーのバネ特性 -RDJ-index(リバウンドドロップジャンプ指数)を用いて-

山内 武(大阪学院大学)

A-15) 中距離選手のミドルパワー評価テストの開発

榎本 靖士(京都教育大学体育学科)

A-16) ウェアラブルセンサの性能とランニング/歩行への適用性の実験的検討

名倉 悠(成蹊大学 理工学部)

A-17) 東京国際女子マラソンにおける記録の推移

池上 孝則(東京大学大学院)

一般研究発表 A

A-17)

東京国際女子マラソンにおける記録の推移

○池上 孝則¹

¹ 東京大学大学院

1979年に世界で初めて女子単独大会として開催され、女子マラソンの五輪正式種目としての採用や日本選手の世界大会でのメダル獲得など、女子マラソンの発展や日本選手の記録向上に多大なる貢献をした東京国際女子マラソンが2008年の大会をもって幕を閉じた。当大会の全体的及び個人的な記録の推移は興味深い課題であるが、その解析においては、各大会での記録は個別測定系における測定値であって真の値に対して固有の系統的偏差を有しているため、それらを補正した後の処理でなければ処理結果における信頼性を担保できない。補正タイムは、偏差が重畳した個別測定系での測定値を系統的偏差がゼロ又は一定になるように構築した仮想測定系での値に変換したものであり、時系列データの解釈においてもより鮮明に大局的トレンドを浮かび上がらせることができる。本稿では、補正タイムに基づくデータ処理により、東京国際女子マラソンの記録の推移を検証する。